緑の相談所だより

－第３１号－

〔１２．１月号　１９９４．１１．３０発行　編集：旭川市緑の相談所〕

講習会のお知らせ

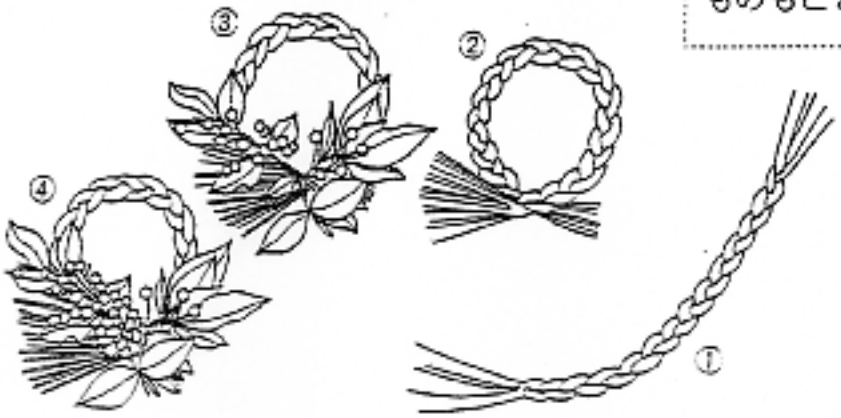
年末年始を飾る
鉢花の管理
（ポインセチア，シクラメンほか）

日時　１２月１１日(日)　午後１～３時
講師　旭川市緑の相談所相談員
　　村　田　正　一
定員　５０名　　参加料　無料
お申し込み・お問い合わせ
　　☎６５－５５５３

お正月飾りを手作りで

作り方

① 紅白の水引で，三つ編みを作ります。
② ①を丸めて輪を作り，端を７～８㌢残しばらしておきます。
③ 下のまとめた部分に，ナンテンの葉と実を飾ります。
④ 最後にマツボックリを飾って仕上げます。



材　料
水引（紅白）
ナンテンの葉と実
マツボックリ

－講談社「冬・花づくし」より－

温室NOW

春夏秋と庭を賑わせてくれた色とりどりの花々も今は白一色におおわれ，来年も一層美しく咲くためにしばしの休息にはいりました。このような時期にこそ，どうぞこ神楽岡公園の緑の相談所の温室においでくださいませ。

シクラメン，ポインセチアがわたしの出番よといいたげに咲いています。

バナナはまだまだ青く小さいけれどいちにんまえの顔をしています。

花の女王といわれるカトレアがその姿と香りであでやかさを誇れば，ワシントンヤシがガラス天井近くから背の高さを自慢します。

コーヒーの木も濃い緑の葉のかげに，ポチポチと赤い実でおしゃれしだしました。

ミカン，オレンジ，花ユズ，レモン，ライムもそれぞれ実をつけています。

そのほかハエトリグサ，ウツボカズラ，オジギソウなどお子さまが喜ぶめずらしいものもございます。

園芸相談　Q & A

問　クンシランの花茎が伸びずに葉の間にはさまったまま咲いてしまいました。花茎を伸ばすにはどうしたらよいでしょうか。

答　割合におおいトラブルです。つぎのことに気をつけてください。

①、花芽は低温の刺激を受けてから伸びる性質があります。あらかじめ秋から冬にかけて10度前後の温度に2か月くらい合わせておくことが必要です。置き場所を選んで低温に合わせてください。

②、花茎が伸びるころ、温度が高いと茎が伸びないうちに無理に咲かせられてしまいます。開花すると花茎は伸びません。15度前後の所でゆっくりと茎を伸ばしてやります。

③、夜、電灯の明かりに当たっていると開花がすすみ、茎が伸びるひまがなくなります。照明のない所に置いてください。

④、蕾の頭が少しでも見えたら、水はふだんより多めに与えてください。水が不足すると花茎も素直に伸びません。

⑤、居間に置いている場合、蕾の頭が見えはじめたら、千倍の液肥を3～4日おきに2～3回与えると伸びを助けます。

つけたし

・直射日光に当てると日焼けします。かといって暗いところでは弱ります。レースのカーテン越しくらいの明るい所におくといいでしょう。

・根詰まりしていると育ちが悪くなります。土が盛り上がっていたり、水の通りが悪くなったりしていたら植え替えが必要です。植え替え時期は5月から6月ころに行います。

・子株が出て株分けしたいときは、子株の葉が10枚以上になってからにします。なるべくは子株にも花がつくまでつけておくほうが早く花がつくようになります。

問　ポインセチヤを求めたのですが、下葉が黄色くなって落ちます。注意することを教えてください。

答　ポインセチヤは高温と日光が好きです。水、肥料もよく吸いますからつぎのことに気をつけてください。

①、最低温度を15度は保ってください。10度以下の温度に合うと葉が黄色くなって落ちます。店で買った帰り道で低温に合わせることがありますから気をつけてください。

②、できるだけガラス越しの日光の当たる、温かい所に置いてください。光線不足では弱ります。

③、水をよく吸いますから乾ききらないうちにたっぷりと与えます。水やりは午前中に室温程度に温めてやります。鉢皿に水をためたままにしておくと過湿で根腐れしますからそのつど捨ててください。

④、肥料が切れると弱って葉の寿命が短くなります。週1回、千倍の液肥を施します。

⑤、湿度（空気の湿りけ）が低くなると葉が傷みます。50%以上はほしいところですが、住宅によってはかなり低い場合があります。株全体に霧水をかけたりして補ってやりましょう。

⑥、4月ころ思い切って切り詰め、根の土を半分くらい落として新しい土で植え替えてやりましょう。土は赤玉土7に腐葉土3くらい混ぜたものを用います。

つけたし

・ポインセチヤはメキシコ原産の植物です。短日性植物といって明るい時間が11時間以下に短くならないと赤い苞（ほう）が出ません。夕方5時か6時ころから翌朝8時ころまで、ダンボール箱でもかぶせて暗くしてやります。2か月くらいかかりますから8月下旬ころから始めるといいでしょう。苞は葉の変形したものです。肥料、温度、日光が十分でないと色よく大きくなりません。

１２月の園芸作業

１．日照

１２月～１月は日差しが弱く日照時間も短くしかも曇天の日が多い時期です。できるだけガラス越しの日光に当ててください。日照不足だと鉢花が咲きにくくなり，新芽，新葉を伸ばしているものはモヤシ気味になります。

強光線に弱いセントポーリヤ，コチョウランなどでもこの時期なら直接当てても大丈夫です。

出窓に鉢を並べている場合，隙間風が当たると低温障害を受けますから注意してください。

また，夜カーテンがかかるとガラスを通して寒気が入り，低温障害を受けます。鉢はカーテンの内側に置きましょう。

２．温度

植物によって適切な温度に違いがあります。温度が高すぎて具合が悪くなるものもあります。シクラメン，アザレヤ，蕾の出たシンビジューム，シャコバサボテン，プリムラなどは，日中２０度以下，夜間１５～１０度くらいにしてやります。日中はガラス越しの日光にはできるだけ当ててやりましょう。

高温の好きなファレノプシス（コチョウラン），デンファレ，ハイビスカスなどは最低温度１５度以上は保つようにします。

３．湿度

冬の室内は湿度（空気の湿りけ）が低くなり，そのため植物が弱りがちになります。

湿度は少なくても５０％以上ほしいところですが，特に集中暖房の住宅は砂漠のような状態になることがあります。霧水を植物全体にかけてやったり，加湿器を用いたりして湿度を補う工夫が必要です。

４．肥料

シクラメン，ベゴニヤほかつぎつぎと花を咲かせるものには週１回，1000～1500倍の液肥を施します。

１月の園芸作業

１．ポインセチヤ

クリスマスに飾ったポインセチヤの赤い苞は，手入れをよくすると結構長持ちします。日光と高温を好みますからガラス越しの日光によく当て 最低温度も15度は保ちます。水切れに弱いので土の表面が乾いたら温水をたっぷり与えます。週１回，液肥も施してやります。

２．ブーゲンビレア

日光が十分に当たらないと花をつけません。冬は日照不足ですから思い切って休眠させるといいでしょう。１月から２月の間10度くらいの低温の所で，葉が落ちるまで水を切って乾かします。その後枯れない程度にわずかの水を与えておきます。春，日照が強くなったらできるだけ日に当て，水やりも増やしていきます。節々から新芽を出してその先に花芽をつけます。

３．ハイビスカス

冬は花数も少なく，もやし気味になるので，伸びている枝の元２～３芽残し，思い切って切り詰めておくといいでしょう。寒さに弱いので低温に合わせないようにします。

４．エラチオールベゴニヤ

秋から冬の間にぎやかに咲き続けます。日中22度，夜間18度くらいが最適です。日当たりのいい所に置きます。光線不足と大きな温度変化では蕾を落とします。水は土の表面が乾いたら，葉にかからないようたっぷり与えます。肥料は液肥を週１回施します。傷んだ花や葉は病気の元になりますからこまめに摘み取ります。

３月に入ると花は少なくなります。４月に切り詰めて植え替えしましょう。

５．シンビジューム

花芽の見える株は日中20度以下，夜間10～15度くらいにします。温度が高いと蕾が落ちるので注意します。水は３～４日ごとにたっぷり与えます。ガラス越しの日光に当ててください。

冬の庭木類の管理

冬期間の気温，雪の量，風などによって庭木類の越冬の仕方は変わります。

たとえば，冬の間あたたかく雪がすくなく春さきの雪どけ時期もあたたかく寒風の害が考えられないような年では，ほとんどの庭木類は被害もなく越冬することが出来ますが，寒くて，しかも雪が多く，春の雪どけの遅い年は，雪による被害，寒さによる被害を受けたり，冬期間が長いために貯蔵養分を消耗し，病，虫の被害を受けやすくなり正常な生育が出来なくなったり，いろいろな生育の障害があらわれます。

貯蔵養分だけで越冬する植物にとっては，冬期間の気象条件がきびしくなればなるほど貯蔵養分の消耗度がおおきくなります。

出来るだけ庭木類を損傷から守ってやることも冬期間の庭木類を管理する大切な作業の一つです。

◉冬期間の作業

（1）冬囲いの点検と手直し

枝吊りや幹吊りの縄のゆるみや，縄のはずれは枝抜けや枝折れの原因となります。このような状態のものを見つけたら，すぐ縛りなおすようにします。また吊っていない枝に雪が積もって損傷の心配がある場合は雪を取り除くようにします。

灌木類（ツツジ類→シャクナゲも含む）も同じです。

束ねた縄のゆるみや，根曲がり竹の異常な曲がりは，枝抜け，枝折れ，幹折れにつながります。見つけたらすぐ縛りなおすようにすることが大事な作業の一つです。

（2）損傷木の処置

庭木類の損傷は越冬期間中に思わぬ形であらわれます。

枝抜け，枝折れ，幹折れなどの損傷を受けたものは，損傷部位が乾かないうちに元にもどし，損傷部位の形成層と損傷した枝の形成層を接着させてビニールテープを巻いて固定し，なおかつ損傷部位がはなれないように副え木を使ってシュロ縄等でしっかり固定するようにし，状態を見て翌年はずすようにします。

この処置の仕方は接木の要領と同じですので，損傷部位を乾かしてしまったり，形成層の部分がずれていたりすると損傷部位から先は枯れてしまいます。

早期にしかも確実に処置することが大切です。